

絶対精誠を尽くし、絶対勝利を天に捧げよう！

聖和 5 周年に向け「120 日特別路程」出発へ

日本家庭連合は、真のお母様をお迎えして5月14日に行われる東京大会の万全の備えをすると共に、真のお父様の聖和5周年に向かう「120日間特別精誠路程」(5月10日～9月6日)の準備期間として、4月19日から「21日間準備特別路程」を出発させています(5月9日まで)。東京大会を通して真の父母様の天運を相続し、聖和5周年までの120日特別路程を「絶対精誠を捧げれば天が役事される」という確固たる信念をもって歩んで、母の国の使命を果たしていくことが願われています。

日本の家庭連合は過去10回にわたる40日路程を通じて、母の国の使命・責任を果たして実質的な成長をし、天一国5年(2017年)を迎えました。特に昨年10月の「韓日指導者和合統一出征式」と共に出発した120日間特別路程を通して、「二世圏祝福」「新規伝道及び休眠食口の再復帰」「認定家庭教会の定着」という3大目標を中心として、今年2月の基元節4周年まで総力を尽くした結果、前例のない天の奇跡を経験しました。

そうした基盤の上に今年3月、家庭連合は後半3年路程の勝利を期し、全国の組織体制を一新。家庭連合時代にふさわしい「孝情を基盤とした心情文化創建」のため、すべての責任者が摂理的・人格的・心情的リーダーになることを新たに決意して出発しました。

真のお母様は4月12日、「天地人真の父母様 聖婚57周年記念式」で、「真の父母によって祝福を受けた祝福家庭、皆さんが知らせなければなりません。教育してあげなければなりません。そのためには国家の復帰が切実です。真の父母様を誇り、知らせ、教育すること！それが皆さんの責任です」と語られました。

一方、お母様は昨年12月、日本の120日特別路程の報告を受ける席で「県別に1万人の食口基盤が築かれれば私が訪ねていく」と約束され、その最初の訪問が5月14日、東京大会から始まります。

東京大会に向けて万全の備えをすると共に、聖和5周年記念日(9月7日)まで実施される120日特別路程のための準備期間として、10次40日間の路程が終わる4月18日の翌日にあたる4月19日から「21日間準備



宋龍天総会長(4月22日、第4地区責任者特別集会)



徳野英治会長(4月23日、川崎「書写ファミリーフェスティバル」)

特別路程」が出発しました。

第4地区で120日路程勝利に向けて出発

4月22日、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は宮崎台国際研修センター(川崎市)で行われた「第4地区責任者特別集会」に出席し、第4地区(南関東)の全牧会者、婦人代表、地区スタッフなど73人を激励しました。

集会では、刑部徹地区長の挨拶、各教区の紹介に続き、宋総会長がメッセージを語り、家庭連合時代は超宗教の時代であることを強調。新しい時代にふさわしい意識と文化に転換していかなければならないと語りました。

さらに、『真の父母様』『原理講論』『天一国三大經典・八大教材教本』の3本柱を中心とした信仰の基本に立ち返り、基本を繰り返すことが希望につながると説明。その上で「真の父母様から教えて頂いた『絶対精誠は絶対勝利につながる』というみ言を実践し、過去の体験を通じて実感してき



真のお母様(4月12日、聖婚57周年記念式)

ました」と述べ、聖和5周年に向かう「120日特別路程」を通して、実質的・実体的勝利を成してこうと訴えました。

「21日間特別路程」に続いて始まる「120日間特別路程」は、二世・青年圏祝福3000人の確保と食口在籍1万人の増加という目標で出発します。5月14日の「母の日」に東京を訪問される真の父母様を通して天運を相続し、聖和5周年までの120日路程の勝利を通して、神氏族メシヤ勝利と救国救世基盤造成という母の国の使命を果たしていくことが願われています。

伝道推進のため全国ネット会議を開催

4月20日には、徳野英治会長を中心として、伝道推進のための全国インターネット会議が開催され、全国の地区長、牧会者、伝道教育部長などが参加しました。

その中で徳野会長は、1万名大会実現に向けた鳥取教区の着実な取り組み(3面に掲載)に言及

しながら、「2020年までにお母様をお迎えして47都道府県で1万名大会を成し遂げるくらいの意気込みがなければ、救国救世基盤の造成は絵に描いた餅となります。すべての希望の源である伝道の勝利に対し、固い決意を持って取り組んでいきましょう」と訴えました。

また、「先回の120日特別路程は非常に重要でした。その取り組みがなかったならば、日本は基元節4周年に勝利の証しをすることが難しかったです。聖和5周年までの120日特別路程も、それに負けない歩みにしなければなりません。伝道と二世祝福を一気に伸ばし、『この期間に母の国の使命を完遂する』とうくらいの決意で精誠を尽くす必要があります」と強調。「21日間準備特別路程にかけられた天の願いを悟り、『ウリヌンハナダ(私たちは一つ)』の精神をもって120日特別路程を勝利し、聖和5周年には天地が喜び、真の父母様が興奮せざるを得ないような実績を捧げていきましょう」と呼び掛けました。

全国最小・鳥取県で1万名大会の実現を 救国救世基盤造成のモデルケースに



1月29日に行われた「新春幸運を招く2000名書写祭りin鳥取」

2月末、金允坤教区長を迎えて新たな出発をした鳥取教区（鳥取、米子、倉吉家庭教会）は、2020年に真のお母様をお迎えし、1万名大会を行う目標を掲げています。

天の願いである100万名会員基盤は日本の人口のおよそ1%です。鳥取県の人口は、都道府県では全国最小の58万人ですが、鳥取教区はその約1%に当たる6000名の会員基盤をつくるため、まず2019年に6000名大会を開催。その基盤の上に、2020年に1万名大会を実現させ、鳥取が救国救世基盤造成のモデルケースとなることを目指しています。

具体的には、①自叙伝書写伝道及び1000名規模の書写礼拝②婦人代表・基台長の伝道投入③家庭・地域書写会の定着④自叙伝書写及び原理・祝福教育の確立⑤壮年による救国救世伝道——の5つの方針に基づいて取り組んでいます。

まず、①の自叙伝書写伝道及び1000名規模の書写礼拝は、これまで鳥取家庭教会が中心となって行ってきました。

2014年には教会で500名規模、2015年には外部会場において1000名規模で実施。同年12月には教会で1000名クリスマス礼拝（3ラウンド合計）を行いました。また16年4月には外部会場で1500名大会、今年1月にも外部会場で2000名大会を開いています。

米子家庭教会も今年4月に500名大会を開催。倉吉家庭教会も昨年、160名規模の書写礼拝を行っています。

方針②は、婦人代表と基台長の伝道投入です。大規模な大会を行う際は、婦人代表が動員の責任を担って

鳥取教区 伝道部長 岩本 幸絵

います。

方針③は、家庭・地域書写会の定着です。

家庭書写会の拠点は現在、地域の書写堂18カ所を中心に82カ所にまで増えています。家庭書写会を実施する毎月1日から10日までの間は、婦人代表をはじめスタッフ、基台長は書写会に全面的に投入し、1ヵ月間の参加人数は延べ1100人に上ります。家庭書写会の定着のため、リンゴ狩りや地域のボランティアなど

も企画しています。

方針④は、自叙伝書写・原理・祝福教育の確立です。

書写礼拝や書写大会に新規で参加した人々を「導入原理講座」に動員した後は、還元祈願礼式や原理セミナーにつなげ、「正会員」に育てていきます。この流れに乗り切れない人たちは、家庭書写会につなげ、賛同会員になってもらいます。教育ラインが充実することで、世界貢献も年々増加していています。

方針⑤は、壮年による救国救世伝道です。

壮年たちは合唱などの活動を通して交流を拡大。「練習に来るのが楽しみになった」「教会に居場所が出来た」と喜びの声が上がると共に、伝道に対する意欲も高まりました。その結果、2000名大会では、多くの壮年が地元議員などを動員しています。壮年が生き生きしてくると、婦人たちも元気になるります。

以上の5つの方針で取り組んでいます、これからは次の2点に注力していく予定です。

1つ目は、家庭書写会・地域基盤の造成で、今年からは各地域・基台ごとに100名大会の開催を目指していきます。2つ目は、書写・原理・祝福教育の確立で、大会参加者の2%を正会員化する取り組みを行っています。

今後は、2018年2月に教会レベルで3000名大会を開催。19年2月には教区レベルで6000名大会を実施する予定です。

2020年、日本一人口の少ない鳥取県に真のお母様をお迎えし、1万名大会を開催できるよう全食口が一丸となって邁進していきます。（談）

人材育成と基台づくりで教会成長 責任者が先頭に立って実践



街頭伝道に臨む小澤秀幸教会長（後列中央）と教会員たち

松戸家庭教会のモットーは、「教会は人であり、食口は家族である」「人を育てない限りは、発展の道はない」です。

これを実現するには、何よりも責任者の意識が重要です。山本五十六（旧日本海軍軍人）の名言に「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」とありますが、責任者が率先して食口たちを大切にしようと努めてきました。

教会発展の原動力は、人材育成と基台づくりだと思います。人を育てるには、実践させることが不可欠であり、伝道の前線活動などを通して、常に挑戦する意識を訴えてきました。

また、「できるか、できないか」で悩むのではなく、「やるか、やらないか」であり、「やれば必ずできる」と信じて取り組んでいきました。結果として、私が2014年に松戸家庭教会に赴任してから、教会員数は少しずつですが右肩上がりに増加し、3年8ヵ月間で約4割増えています。

赴任してきた当初、松戸家庭教会には①スタッフ不足②教育ラインが確立していない③教会の環境が整っていない——といった課題がありました。

その対策として、①全食口スタッフ化②全食口前線メンバー化——などに取り組み、食口の主体的信仰の確立と実践教育の充実を目指し、一人ひとりの意識改革を行っていきました。

具体的には、街頭伝道を中心に前線活動の強化を図り、教会長をはじめ、伝道部長や他のスタッフが率先して前線で活動。「いつでも、どこでも、誰にでも！」

北千葉教区松戸家庭教会 教会長 小澤 秀幸

という方針で伝道を進めた結果、2014年の1年間で105人が受講決定し、食口たちは少しずつ自信を付けていきました。

2015年は、「祝福伝道を中心に基盤づくりと教育」をテーマに、家庭や氏族、友人・知人に天の父母様と真の父母様、教会を正しく証し、

祝福に導いていきました。特に、単独では難しい夫復帰や親復帰には全体で取り組みました。

一方、新規向けの讃美礼拝などを充実させる共に、聖歌隊を発足させて神霊に満ちた礼拝を心がけていくと、新しい人が喜んで来教するようになりました。15年は120家庭（既成24組、霊肉96組）が祝福を授かっています。

2016年は、それまで伝道され祝福を受けた人々を定着させるため、「基台の編成と基盤づくり」（家庭教会活動）を進めました。具体的には、教会員の居住地ごとに改めて地域割りをして基台を再編成し、地域に密着した活動を推進。基台長・区域長を中心に、家庭礼拝・集会の定着を図り、そこに新規や再復帰の人々を連結させていきました。

その歩みの上に、2017年は「家庭教会安着と地域基盤造成」を目標に掲げ、家庭礼拝と家庭集会を継続的に行っています。現在、33の家庭教会があり、毎週・毎日どこかで家庭礼拝・集会が行われています。

一方、松戸家庭教会と隣の柏家庭教会の食口のうち、野田・流山地域のメンバーが教会の枠を超えて協力し、講演会や集会などを開催。今年1月には、1基台（松戸10家庭、柏20家庭）だけで120人大会を行い、国会議員や地方議員が出席しました。

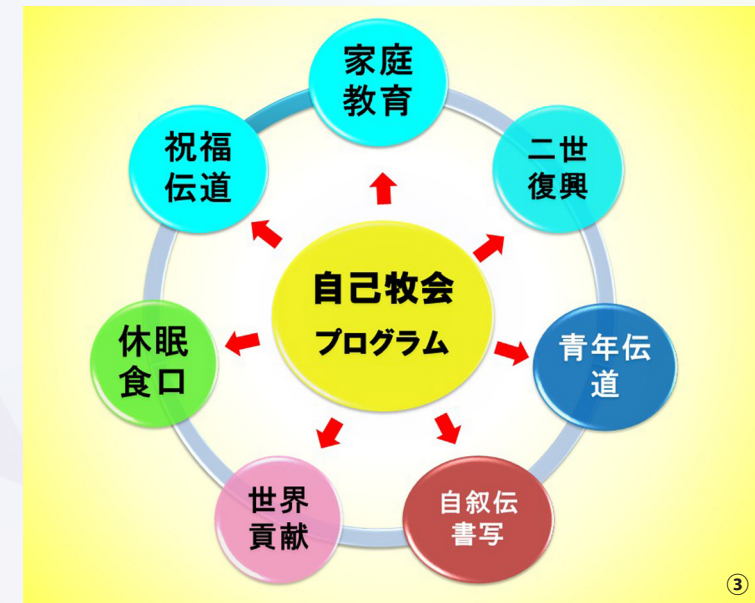
これからも松戸家庭教会は、いつも摂理の時と方向性に合わせ、本部からの方針を現場に合った形で展開し、「継続は力なり」の精神で、結果が出るまで地道に努力していきます。（談）

“伝道の波” が神氏族メシヤ時代を切り開く

南東京教区が“自己牧会プログラム”で復興



① 4月7日、金満辰第5地区長（前列中央）を迎えて SMC で行われた集会で。金地区長の左が堀正一南東京教区長、右が杉田善忠孝成教会長 ② 4月23日、北東京教区荒川家庭教会で開かれた「自己牧会プログラム1日修」 ③「自己牧会プログラム」のイメージ ④ 毎朝行われる伝道出発式 ⑤ 親子で伝道活動する家庭



南東京教区（堀正一教区長）は、天一国時代にふさわしい信仰生活を身につけるための「自己牧会プログラム（ワクワクセミナー）」を青年伝道に導入し、着実な成果を上げています。同プログラムを通じて教会員が復興し、喜んで伝道活動に取り組むメンバーが増えた結果、受講決定数が増加し、昨年は30人の青年メンバーが誕生しました。



同プログラムは、杉田善忠・孝成家庭教会長が自らの信仰体験に基づき、み旨を歩みながら様々な問題を抱えて苦悩している食口たちのために考案したもの。「こうやって考えればよい」「こういう祈りをすれば心が変わる」といったように簡単に心の転換を行うことができる方法が「ワーク」としてまとめられています。ワークを通して、食口たちが三大祝福の恩恵を実感できるようになるのが最終的なゴールです。

一方、堀教区長は、本部で家庭教育局長をしていた当時から、二世たちの悩みの多くが家庭に起因している現実に直面していました。み旨は多くの犠牲を伴う歩みだったため、長い年月の中で多くの家庭が傷ついてきたのです。

堀教区長は「ワクワクセミナー」を、先ずは一人ひとりの心霊復興と、家族の愛の関係を“再起動”させる「自己牧会プログラム」として、教区次元で推進しようと決意。現在の取り組みが始まりました。

個人と家庭の復興が教会文化の刷新をもたらし、本格的な神氏族メシヤ時代を切り開いていくという、伝道の波が起こり始めています。

孝成、渋谷両家庭教会における新規受講決定数の推移を見ていくと、2015年2月以前は、孝成は月10、渋谷は0でした。同年3月、杉田教会長が孝成家庭教会に赴任。同プログラムを青年伝道に導入し、それまでの伝道方法からの大転換を図った結果、同年3月～9月の孝成家庭教会における受講決定数は、月20に増加しました（渋谷は0）。

当時は、孝成家庭教会のメンバーが渋谷や品川など都心部で街頭伝道を行い、そこで出会ったゲストを30～40分かけて電車などで孝成家庭教会（川崎市）まで連れて行って、受講決定するという状況でした。

15年9月、堀教区長が孝成家庭教会を訪れ、「渋谷には場所があり、孝成には人材がいます。両者がコラボレーションして“Win-Win”の関係を築きましょう」と提案。孝成、渋谷両家庭教会が連携し、青年伝道を進めていくことが決まりました。

15年9月末に孝成・渋谷のコラボがスタート。16年1月には、南東京教区の伝道所として、渋谷の中心街に「渋谷ミッションセンター（SMC）」が開所するなど、伝道推進の環境が整っていきました。

そうした中、受講決定数は孝成30、渋谷10と次第に増え、現在では南東京教区全体で毎月50前後となっています。そのうち年間およそ30人が新しい食口とし



て青年部に加入しており、その動きは2017年に入っても続いています。

こうしたことから、「ワクワクセミナーは青年伝道に有効だ」と誤解される傾向があります。しかし、同プログラムの本質は「天一国主人づくり」であり、「第1伝道」（自己伝道）できるようになることが目標です。書写伝道や祝福伝道などの外部伝道の手段とは異なるのです。

同プログラムは、「良心」との対話が中心に位置づけられていますが、10年以上教会から距離を置いていた祝福二世が、このプログラムを学んでいく中で、実際に良心の声を聞いたことが切っ掛けとなり、大きく転換したケースもあります。祈ると神様から答えが返ってきた経験を通じて、とても嬉しく安らかな気持ちになり、教会に対する疑念が薄れ、祝福に対しても前向きに変わっ

たのです。

同様に南東京教区においては、良心との対話を通して食口全体が復興していく中で、伝道前線に出るメンバーが増え、受講決定数も増えていったというのが実情です。

渋谷家庭教会では、同プログラムと自叙伝書写を融合させた「わくわく書写」をスタートさせ、長年の懸案だった婦人伝道につなげる取り組みも始めています。また二世圏の復興のため、小学生や中高生の教育にもこれを導入し、祝福伝道でも活用しています。

現在、関心を持った人々からの要望を受け、南東京教区から講師が全国に派遣され、各地で同プログラムのセミナーが開催されています。今後、同プログラムを通じて食口たちが復興した“エネルギー”をどういった分野に注いでいくかは、それぞれの教会やリーダー次第です。

天の切実な願いを共有し決意新たに出発

千葉・浦安で「全国渉外部長会議」



①



②



① 宋総会長
② 徳野会長
③ 宋総会長の講話を聴く参加者

③

4月18、19日の両日、千葉・浦安の一心特別教育院で「全国渉外部長会議」が開かれ、全国の地区、教区の渉外部長をはじめ、関係機関の責任者およそ150人が参加しました。

VISION2020の残り3年を出発するにあたり、渉外分野でもこのたび体制改編が行われましたが、今回はその新体制のもとで救国救世基盤造成のための戦略と活動を共有する場となりました。

18日午前に行われた開会式では、宋龍天総会長が講話し、「真のお母様は天一国実体創建の先頭に立ち、全世界の摂理の最初の結実を結ぶ日本になってほしいと願われながら、毎瞬間、精誠と祈りを尽くされています」と語り、渉外の責任者たちに対し、新しい決意と覚悟で本当に天が願う救国救世基盤造成を成し遂げてほしい、と訴えかけました。

また、真の父母様のみ言をひも解きながら、渉外責任者の心構えとして、①真の父母様と摂理をより深く知り、世界平和のための戦略をよく理解する②目標意識を明確

にして、自己中心の意識を捨ててそれに向かっていく③持続的に活動し、常に精誠を尽くしていく——などのポイントを示しながら、渉外活動の飛躍的發展に期待を寄せました。

午後には、徳野英治会長が激励のメッセージを贈りました。徳野会長は、4月12日に行われた「真の父母様聖婚57周年記念式典」の様子を紹介しながら、その際に真のお母様が示された、救国救世基盤の造成に対する並々ならぬ決意について言及。

その上で、最終的な勝利の秘訣として、「ウリヌンハナダ」（私たちはひとつ）を強調。一丸となって真のお母様と一体化すればできないことはない、と参加者を激励しました。

会議ではこのあと、渉外分野の責任者が登壇し、今後の活動方針や体制についてのプレゼンテーションが行われたほか、夜にはグループごとにディスカッションを実施。目標勝利のための具体的な運動戦略や地方活動の進め方について熱心な議論が行われました。

家庭連合時代にふさわしい心情共同体に

宋総会長が「純世国際学院」東京校を訪問



① 学院の玄関前で記念撮影
② 父兄の話に耳を傾ける宋総会長（右奥）
③ 真のお母様からのお見舞金を学校関係者に手渡す宋総会長

4月22日、宋龍天総会長が川崎市の「純世国際学院」東京校を訪問し、同学院の在校生・卒業生の父兄やスタッフと交流する機会を持ちました。20人程度の小規模な集会でしたが、その分、宋総会長と間近に接することができ、恩恵深い復興の場となりました。

純世国際学院は、臨床心理士である大知勇治氏が2009年に設立した二世のためのサポート校です。同学院には通学コースと自宅学習コースがあり、いずれのコースにおいても一般の高校の卒業資格を得ることができます。現在、東京校以外に大阪校、岡山教室、名古屋教室があり、合わせて約60人の生徒が在籍しています。

集会は、スタッフによる同学院の紹介から始まりました。続いて、父兄が自己紹介を兼ねて、各家庭の状況を報告。宋総会長は時折、質問を交えながら、全員の話に熱心に聞きました。教会員一人ひとりの家庭事情に関心をもち、直接声を聞こうとする宋総会長の姿勢に、父兄たちは強い感銘を受けました。

その後、宋総会長が講話を行い、「以前から純世国際学院に来ることを願っていました。本当は一番初めに来なければならなかったのに、（今になってしまったことを）申し訳なく思います」と慰労の言葉を述べた上で、一人ひとりの心情に訴えるメッセージを贈りました。また、真のお母様の二世教育に対する関心の深さや、家庭連合時代において心情共同体を実現することの重要性を

強調しました。

メッセージの後には、参加者が自由に意見を述べ合う場となりました。宋総会長がどんな意見にも熱心に耳を傾ける中、特に学校建設をめぐる非常に活発な意見が交わされました。参加していた二世が涙ながらに心情を吐露する一幕もありました。

宋総会長は最後に、真のお母様から直接いただいたお見舞金をそのまま純世国際学院に寄贈。参加者は皆、真の父母様と宋総会長の愛を感じ、感謝するひと時となりました。

【参加者の感想】

■ 宋総会長の語られる一言一言に霊的波動があり、背後に二世教育に心情を投入してくださっている真の父母様がいらっしゃることを感じました。これからの二世教育と家庭連合にさらに希望が持てました。

■ 日本の摂理のあらゆる責任を背負いながら、日本を愛する宋総会長の姿に感銘を受けました。私たちが本当に幸せにならないといけないのだと思いました。

■ 自分自身の壁、家庭の壁を壊して、共に助け合い、心配し合い、力になり合う家庭同士になっていきたいと思いました。

川崎「書写ファミリーフェスティバル」に 1000 人

4月23日、川崎家庭教会（李殷徳教会長）は川崎市内の会場で「第45回愛天愛人愛国書写ファミリーフェスティバル」を開催し、地元議員をはじめ約1000人が集まりました。「孝情の光となり、世に希望をたえる」をスローガンに掲げた今回のフェスティバル。県別1万人大会に向けての基盤造成と共に、伝道推進と内部の復興を目的に開催されました。

徳野英治会長は特別講演で、今回の書写のテーマである「家和して万事なる」に沿って家庭の重要性

を強調。講演の合間に笑いと拍手が起こるなど、新規参加者にも分かりやすい内容であると同時に、食口たちにも深い感銘を与える講演でした。

フェスティバルは、書写実践、徳野会長による祈願成就祈禱、プレゼント抽選会に続き、フィナーレでは3世代合唱団の71人が、真の父母様を頌賛する韓国語の歌や英国の「第二の国歌」として知られる「威風堂々」を英語で披露。会場は大きな感動に包まれました。



全体で記念写真



書写を行う参加者

新宿家庭教会で青年歓迎ファミリー礼拝

4月16日、青年・学生のフレッシュマンを歓迎するファミリー礼拝が新宿家庭教会で開催されました。この企画は昨年からの実施しているもので、4月から中学・高校・大学に進学した新1年生や、就職などで地方から新宿に移管してきた青年などの新しい門出を祝福する意味を込めた礼拝です。この日は、乳幼児からお年寄りまで世代を超えた食口とその家族のほか、新規・教育中のゲストを合わせた約350人が参加しました。

オープニングアトラクションでは、青年がオーボ

エ演奏と合唱を披露。続くスピーチで、大学生と高校生の代表が各自の体験や夢を語り、聴衆に希望と感動を与えました。

引き続き、成河鍾・東東京教区長は「復活の月と親孝行」と題して説教。真のお父様が82年前の4月にイエス様から使命を託されてみ旨の道を出発されたことを紹介しながら、「希望を持って、天の父母様と真の父母様に親孝行の道理を果たしていきましょう」と述べ、参加者を激励しました。



礼拝に集まった青年学生



ダンスを披露する青年学生

熊本阿蘇家庭教会で震災 1 周年復興バザーを開催

熊本地震の発生から1周年となった4月16日、熊本阿蘇家庭教会は「震災1周年復興バザー」を開催しました。

午後2時、最初に全体で祈禱を捧げて開幕。宋峯圭^{ソンボンキョウ}教会長の主催者挨拶、聖歌隊讃美、天父報恩鼓の演舞の後、福岡、久留米から復興のために駆け付けたメンバーが統一武道の演武を行いました。

礼拝堂の2階では、復興バザーと統一運動のパネル展を開催。壮年婦人、韓国婦人が、たこ焼きや焼きそば、チヂミ、チャプチェを振る舞いました。

同20日、熊本阿蘇家庭教会の代表5人が熊本県益城町役場を訪れ、向井康彦副町長に面会。復興バ

ザーで集った寄付金を手渡しました。



高知教区でオープン礼拝

4月16日、高知教区は高知市内の会場でオープン礼拝を行い、新規61人、再復帰25人を含む565人が参加しました。教会員たちは真のお母様をお迎えするための1万人基盤復帰を意識し、動員に取り組みました。

オープン礼拝は、青年部のダンスで開幕。4姉妹から成る「Nシスターズ」による歌、天一国青年宣教師の活動報告、来賓挨拶に続

き、石尾豪志高知教区長が「新しい風を吹き込む日本の窓になろう」とのタイトルで説教を行いました。



奈良・かつらぎ家庭教会で「ファミリー春祭り」

4月17日、奈良教区かつらぎ家庭教会（前田雅和教会長）は復興イベント「第1回 かつらぎファミリー春祭り」を行い、新規31人を含む約130人が参加しました。

第1部の書写奉納式では、前田教会長の説教で全体が復興。第2部では、5つの地域担当者がゆるキャラのお面をかぶりそれぞれの地元を紹介。また壮年部による歌や青年部による漫才が家族的雰囲気盛り上げました。

第3部は、教会前の駐車場に食べ物の屋台が店開き。また小さな子供たちはスーパーボールすくい等で楽しいひと時を過ごしました。

